第１学年　算数科学習指導案

日　時：令和６年６月 14 日（金）５時間目
場　所：１年２組教室
授業者：

１．単元名　のこりはいくつ　ちがいはいくつ

２．指導の立場

（１）単元について

児童は、これまでに、具体的な操作を通して集合数や順序数の意識を育てるとともに、具体物や算数ブロックなどを用いて、10 までの数の構成（合成、分解）を学習し、数概念の理解を深めてきた。また、前単元ではこれらの理解を基礎として加法について学習してきた。

本単元では、数量の関係に着目し、場面を式に表したり、式を読み取ったりすることを通し、減法の意味や計算の仕方を考える力を育成する。

（２）本単元で働かせる数学的な見方・考え方

求残、求補、求差の場面で、数量の関係に着目し、ブロック操作をすること。また、減法計算の仕方をブロック操作をもとに考えること。

（３）本時について

本時は、前時までに学習した求残の考え方を基に、求補の場合へと減法の意味を拡張する。全体の数から部分の数をとることで、もう一方の部分の数が求められることに気付き、ブロック操作が求残のときと同じであることから、求補は求残の場合と同じ「ひきざん」の式で表せることを理解する。

（４）学習指導要領との関わり

Ａ数と計算
（１）　数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
（エ）　一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
（２）　加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
（ア）　加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。
（イ）　加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
（ウ）　１位数と１位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。
イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
（ア）　数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

（５）単元の目標と評価規準

減法の意味と被減数が 10 以内の減法計算の仕方を理解し、数量の関係に着目して減法の意味や減法計算の仕方を考える力を養うとともに、減法の意味や減法計算の仕方を操作や式に表して考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を育てる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
求残や求補、求差など、減法が用いられる場合について知り、被減数が 10 以内の減法計算が確実にできる。	減法の意味に着目し、求残や求補、求差などの場面を減法の式に表し、その計算の仕方を数の構成や操作などを用いて考え、表現している。	減法の意味や減法計算の仕方について、数公正や操作などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

３．研究との関わり

〈研究テーマ〉
見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方
〈研究内容〉
考えを深める交流活動の設定

【本時に目指す「見方・考え方を働かせる」姿】
・ブロック操作で、全体から部分を引いて考える姿。
・前時と同じブロック操作の仕方だと気付き、引き算だと理解する姿。

【仮説】
ブロック操作を全体で確認し、その後ペア交流を位置づけることで、ブロック操作をしながら自分の考えを話すことができる。

【達成のための手立て】
① ブロックを操作するときの約束を徹底する。
② 個人追究の場面でも、自分の考えができた児童からペア児童と交流をしてもよいこととする。

４．単元指導計画

次	時	単元の見通し
⑴ へる	1	求残の場合について、減法の意味や、式の表し方を理解する。
	2	求残の場面を減法の式に表し、答えを求めることができる。
	3 本時	求補の場合について、減法の意味を理解する。 被減数が 10 以内の減法の計算の仕方を理解し、その計算ができる。
	4	減法の計算能力を伸ばす。
⑵ ０のひきざん	5	０を含む減法の計算の意味を理解する。
⑶ ちがい	6	求差の場合について、減法の意味を理解する。
	7	文章題の解決を通して、求差の意味理解を深める。
⑷ おはなしづくり	8	減法の意味理解を基にして、式を読み取ってお話をつくり、説明することができる。
まとめ	9	学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値づける。

５．本時の目標（３/９）

部分を求める場合のブロック操作を考える活動を通して、全体の数から部分の数をとる動作が残りを求める場合のブロック操作と同じであることに気付き、減法の式を立てて計算することができる。

６．本時の展開

	ねらい	学習過程	研究との関わり
つかむ 深める まとめる	問題場面をとらえ、本時の見通しをもつ。 自分の考えをもつ。 ブロック操作と式をつなげる。 ブロックを操作しながら話す。 減法計算の仕方を理解し、まとめる。 知識・技能を確実にする。	**１　問題場面をつかむ。** もうさぎが８ひきいます。しろは３びきです。くろはなんびきいますか。 ・うさぎは全部で８匹です。 ・白うさぎは３匹です。 めブロックをうごかしながら くろうさぎがなんびきかかんがえよう。 **２　個人追究をする。** **３　全体交流をする。** ・黒うさぎを知りたいので、白うさぎの３つ分を取ります。 ・８から３を取ると５になります。 ・黒うさぎは５ひきです。 **４　式に表す。** ・ブロックを取るから引き算です。 ・８－３＝５ **５　ペア交流をする。** ・はじめに、うさぎが８匹いるからブロックを８個置きます。次に、白うさぎが３匹いるからブロックを３つ白にします。最後に、白うさぎを取ると黒うさぎの数がわかるので３個取ります。だから、式は８－３＝５です。答えは５匹です。 **６　△７に取り組む。** **７　まとめる。** まくろうさぎをしりたいときも、ひきざん。 **８　△８に取り組む。**	・白うさぎと黒うさぎを分かりやすくするために、ブロックを３個白にするところまで一緒に行う。 ・言葉とブロック操作がつながるよう、前で話す児童に話しながらブロックを動かすよう助言する。 ・ブロックの動かし方に納得できるように、ペア交流の前に全体でブロック操作を確認する。 ・一人で説明するのが難しい児童には、ペアの児童が教えるよう声をかける。 【評価規準】（知・技） 全体の数から部分の数をとる動作が求残のブロック操作と同じであることに気付き、減法の式を立てて計算することができる。